

松阪市議会議員 西村 友志 様

研修報告書

日時：	平成 28 年 12 月 26 日(月)10:00～12:15
場所：	松阪市役所 議会棟 第三・四委員会室
テーマ：	公会計&公共施設マネジメント関連 勉強会
講師：	ジャパンシステム株式会社 公共事業部ソリューションストラテジスト 松村俊英氏
参加者：	海住恒幸、西口真理、深田龍
内容：	<p>平成 26 年の 4 月に総務省から公会計における固定資産台帳を含む整備促進のための統一的な基準が公表され、平成 27 年 1 月には各地方自治体に対し要請が行われた。当市でも平成 27 年から移行期間が 3 年あるなかで、整備が進められているが現金主義だけではなく、発生主義も取り入れていこうとする方向性とその中身について学ぶことを今回の研修の目的とする。</p> <p>尚、東京都は独自の会計基準➡総務省は容認 市民病院はまた違う会計基準モデルが存在している。</p> <p>【発生主義を導入する背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費や引当金などの「見えなかったコストの見える化」 費用以外でも認識しなければいけないもの・・・退職金、返ってこないであろう金額の見積りを認識する。見えない数字を追うことが重要。 ・市民への説明責任の向上 企業会計で行っているバランスシートを導入しなければいけない。 <p>【発生主義を導入するメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の税負担に対する意識を醸成する事が可能 ・政策評価への活用が可能 ・債権・債務管理の高度化 <p>【民間と公の違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間のバランスシートでは売れそうなものだけを載せるが、公はそういうわけにはいかない。その点については、民間との違いとして認識しておく必要がある。
所感：	<p>見えてなかったもの（数字）が見えるようになることにより多角的な視点から行政の政策や事業をチェックすることができるようになる。今回は公会計の基本的なことについて学びを得られた。多角的な視点という具体的な見方については、更に知識を深めていく必要性を感じた。また、公会計を執行部内においていかに充実・強化を図れるか人材育成という課題や、全庁的に統一的な基準の導入に当たってシステムの整備が必要となる課題もある。こういった課題については、執行部との意見交換や議論のなかで確認していく必要がある。</p>